

平成26年度

# 第16回 西日本国際財団アジア貢献賞 授賞式 第10回 西日本国際財団AsiaKids大賞

開催日時 平成27年3月6日(金) 開場14:00 開演14:30 終演17:15(予定)

開催場所 ホテル日航福岡 3階「都久志の間」  
(福岡市博多区博多駅前2丁目18番25号)

## ■プログラム

14:30~16:00 「アジア貢献賞」「AsiaKids大賞」授賞式

16:15~17:15 國際交流講演会  
テーマ『地球市民としてアジアとどう向き合うか』

### 講演者

異文化コミュニケーションセンター、  
前国連ハビタット親善大使

マリ・クリスティーヌ 氏



### ■プロフィール

父親の仕事に伴い4歳まで日本で暮らし、その後ドイツ、アメリカ、イラン、タイ等諸外国で生活。単身帰国後、上智大学国際学部比較文化学科卒。この頃スカウトがきっかけで芸能界へ。94年東京工業大学大学院理工学研究科社会工学専攻修士課程修了。今現在も都市工学を学んでいる。生まれながらの環境から学んだ幅広い視点から国際会議・式典等の司会、講演活動など多方面にわたり活動。乳がんの予防、早期発見のため、企業のCSRアドバイザーとしても活動している。また、国連ハビタット福岡本部の支援を行っているハビタット福岡市民の会の活動に長年関わり、最近では日本ハビタット協会の副会長として福岡市民の会と様々な面で連携している。

1999年6月 AWC(アジアの女性と子どもネットワーク)代表  
2000年6月 国際連合人間居住計画(国連ハビタット)親善大使に任命  
2002年3月 2005年日本国際博覧会 愛・地球博 広報プロデューサー  
2006年4月 あいち海上の森名誉センター長  
2009年4月 「生物多様性条約第10回締約国会議」(COP10)支援実行委員会広報アドバイザー  
2009年11月 富山大学客員特別研究員  
2010年8月 シルク博物館名誉館長  
2013年12月 九州大学大学院工学府客員教授(異文化交流学)

## 平成26年度 西日本国際財団アジア貢献賞・AsiaKids大賞

### 審査委員

衛 藤 卓也 学校法人福岡大学 学長  
川 上 康男 株式会社長府製作所 代表取締役会長  
喜多村 円 TOTO株式会社 代表取締役社長執行役員  
是 永 駿 学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学 学長  
坂 本 正 学校法人熊本学園 熊本学園大学 教授  
田 代 知代 学校法人大淀学園 学園長  
多 田 昭重 株式会社西日本新聞社 顧問  
野 口 郁子 福岡市人事委員会 委員  
廣 田 真弥 株式会社西日本シティ銀行 取締役常務執行役員

### 選考委員

井 口 宏樹 福岡市総務企画局 國際部長  
牛 嶋 洋一郎 東山手「地球館」館長  
川 崎 隆生 株式会社西日本新聞社 代表取締役社長  
熊 谷 晃 福岡県新社会推進部國際交流局 交流第一課長  
小 石 佐織 北九州市総務企画局 國際部長  
古 賀 桃子 特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター 理事長  
重 藤 健士 公益財團法人西日本国際財団 専務理事  
西 岡 潤史 福岡商工会議所商工振興本部 國際部長  
山 下 雄司 特定非営利活動法人地球市民の会 理事長

(平成27年2月末現在)  
(敬称略、五十音順)

# 西日本国際財団アジア貢献賞の概要

西日本国際財団は、昭和60年3月、西日本銀行（現西日本シティ銀行）の普銀転換、並びに創立40周年の記念事業として設立されました。

以来、今まで国際交流を推進することにより、国際相互理解の促進、国際的人材の育成、及び地域との交流を目的として事業を続けて参りました。

平成12年3月で15周年を迎えるにあたり、九州・沖縄・山口地域において、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を表彰し、国際交流の輪を拡げようという趣旨で「西日本国際財団アジア貢献賞」を設けました。

## 1. 対象

原則として九州・沖縄・山口地域に居住し、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体又は個人を対象とします。

## 2. 基準

- (1)環境問題
- (2)人物交流・人材育成
- (3)スポーツ、文化
- (4)医療、福祉、経済発展援助 など

上記の範囲の中から、事業理念、継続性、独自性、先導性の要件を備えているか、また、草の根的な活動を行っているかなど総合的に検討し、3団体（個人）程度を表彰します。

但し、研究部門及び営利を目的とする団体（個人）を除きます。

## 3. 表彰内容

表彰基準に照らし、国際貢献の努力と成果において最も相応しい団体（個人）を候補者選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、顕彰金及び記念品を贈呈します。

# 西日本国際財団アジアKids大賞の概要

西日本国際財団創立20周年記念特別賞として平成17年に、「西日本国際財団アジアKids大賞」を創設しました。以来、国際交流事業を通じ、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献している小・中学校及びその周辺で活動している地域こども団体を表彰しております。

## 1. 対象

原則として九州・沖縄・山口地域の小・中学校及びその周辺で活動している地域こども団体を対象とします。

## 2. 基準

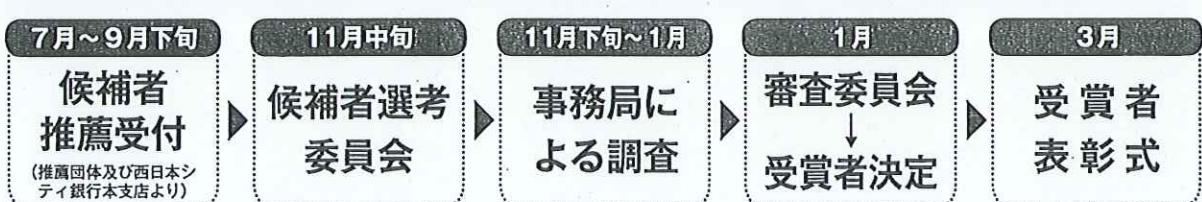
上記1.の対象者が行う、国際交流事業、国際相互理解と国際友好親善の促進に貢献し、なおかつ、継続性・相互性・自立性・教育性の要件を備えているもの。

## 3. 表彰内容

表彰基準に照らし、最も相応しい学校・団体を候補者選考委員会、審査委員会で選定し、賞状、顕彰金及び記念品を贈呈します。

以上

## 推薦から表彰式の流れ（西日本国際財団アジア貢献賞&西日本国際財団アジアKids大賞）



## 第10回西日本国際財団アジアKids大賞 受賞者の活動内容

### 宗像地区スポーツ少年団



代表 北崎 正則 氏

活動開始：1999年

代 表：北崎 正則 氏

活動地域：韓国・金海市等、福岡県宗像市

#### 1. はじまり

宗像市と姉妹都市である韓国・金海市への宗像市体育協会の事業の一環として「スポーツ交流を通じて国際交流をしたい」と相談を受けました。当初、韓国は近くで遠い国のイメージがあり、保護者や子どもたちからも進んで行こうという雰囲気はありませんでした。そこで、宗像市内10チームの監督に集まつていただき、25人を選抜する形で韓国を訪問しました。レセプションやホームステイ・交流試合などを過ごすうちに、子どもたちは当初の心配が嘘のように言葉の壁を乗り越えて韓国の子どもたちと打ち解け合っていました。私自身も金海市の野球協会の方々とも親しくさせていただき、14年目になる今日までその『つながり』は続いています。

#### 2. 国際交流の中で

14年間の国際交流の中で資金面や民族感情など継続していく危機的な状況も出てきました。そのたびに、県や市、体育協会の補助金などを活用させていただき活動してきましたが、期限付きの為、打ち切り後に継続が難しいこともあります。参加した6年生の話を聞いた下級生が、素麺などの物品販売をして資金を集め積み立てをするなど自助努力しながら継続しています。

また、竹島（独島）問題の際には、国策が大きく左右する韓国では、前々日に急きよ「今回の交流ができないかもしれない」という連絡がありました。私たち役員も戸惑いましたが、最悪の場合は、観光のみで帰国するかもしれないことを覚悟し韓国へ向かいました。交流している金海市の小学校が国立のために公式訪問はできなかったものの、金海市の人たちが「我々の交流に何の問題もない」と言い温かく受け入れてくれた為、非公式訪問が実現し、親善試合を行うことができました。

昨年は、韓国旅客船セウォル号事件で交流を延期等したところもある中、宗像市、金海市の子どもたちの強い要望で7月に宗像市から9月には金海市から訪問を実現することができました。金海市の子どもたちはヤフオクドーム（福岡市中央区）で福岡ソフトバンクホークスの試合も観戦し、特に李大浩選手のホームランに大きな歓声を上げていました。

#### 3. 継続していく良さ

やはり一番は、国という垣根を越えて野球というスポーツを通して子どもたちが仲良くなることだと思います。また訪問の際には、子どもたちは夏休みの課題のひとつとして韓国で調べたいこと、感じたいこと、味わいたいことなどをレポート作成しています。身近な国、韓国の文化（衣・食・住・歴史など）を体験し、風習やマナーなど日本との違いを意識しながら国際感覚を持たせるようにも配慮しています。

特に釜山の国連墓地には平和ということの大切さを感じてもらうため、必ず訪れています。親善試合、ホームステイの際にも韓国語でスピーチをするなど、子どもたちへ楽しく国際感覚を身に着けるように工夫しています。

金海市訪問は、例年7月に2泊3日で宗像市内野球10チームに所属する小学6年生と保護者・指導者が対象となっており、宗像市内の野球大会で日頃は敵対しているチームの子どもたちが、韓国訪問前には合同練習を行うなどして交流を深めるとともに保護者の交流の輪も広がっています。その後、同じ高校へ進学し一緒に野球をしている子どもたちが出てくるなど、宗像地区の子どもたちの相互交流にもつながっています。

## 活動の様子



宗像市役所での出発式



宗像市内10チームの中から選抜された子どもたち



初めての韓国での食事



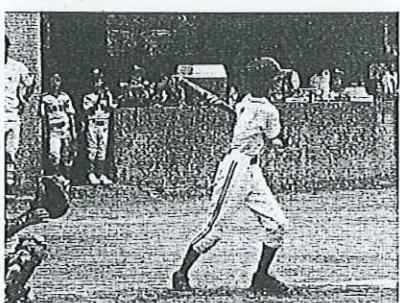
金海市スポーツ文化センター見学



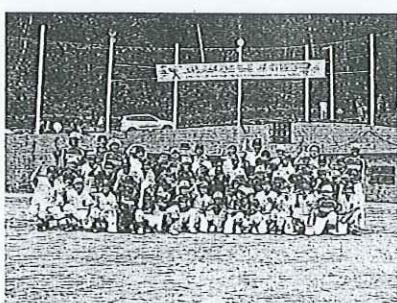
韓国の家族に迎えられる子どもたち



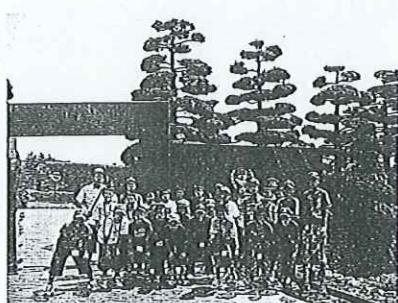
韓国語でのレセプションスピーチ



親善試合



金海市の子どもたちと記念撮影



国連墓地訪問